

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	100	学校名	沼津市立沼津高校・中等部	校長名	清水 正信
------	-----	-----	--------------	-----	-------

*評価はA・B・C・Dを記載。

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
1	地域や保護者との連携協力による安全安心な学校づくり	生徒個々の通学路に対応した交通安全教育の実施	生徒	交通事故 15 件 被害 9 件 自損 3 件 自過失 2 件 加害 1 件	C	・交通事故件数が、前年度に比べ約倍になってしまった。(被害も含む) ・特に、加害事故が出てしまったことが問題継続して、注意喚起を行っていく。 また、交通事故後の処置(警察への連絡)を徹底する。
		いじめ防止対策基本方針に基づく取組の実施	生徒	・学校生活等に関するアンケートを使い、いじめやトラブルのあぶり出しをした。 ・講話は、今年度は中止。	A	・年度初めに、メディアポリシーの周知を行い、SNSを介するいじめの撲滅。 ・状況が許せば、SNSに関する情報モラル講話を行う。
		P T A と連携した防災対策の推進	総務	・地区防災会は中止となったので、防災講座は開催していない。 ・第五地区防災連絡協議会は書面開催 ・地域防災訓練は中止の地区が多かった。	B	・来年度は感染拡大の状況を見て活動する。
		学校施設の安全点検	保健	・学期に1回実施	B	・日常的な点検→報告→修繕の流れを作っていきたい。
		不祥事根絶研修による取り組み実施	管理職	・「コンプライアンス通信」の配信や、紙面による研修等を行った。	A	・継続して取り組みたい。
		保護者との双方向の情報通信システムの研究	進路	・生徒の学習支援・保障の観点からの研究は積極的に進められたが、保護者とのやりとりはまだ至っていない。	B	・他校のような外部業者のサービスを介さずに、低コストかつ安定的な情報通信システムの枠づくりに向けて、更なる情報収集が必要。
		学校運営協議会制度の導入の研究	管理職	・周辺中学校の取組状況を確認した。	B	・今後も研究を続けたい。
2	自ら学び自ら進路を切り拓く生徒の育成	中高6年間のキャリア教育の推進	学年	(高1) ・現在の学習を将来にどうつなげていくのかを考えることで、進路意識を高めることができた。 (高2) ・「私の沼津」の活動の中で沼津市の英語PR動画の作成を行った。 (高3) ・休校中にロイロノートを活用した総合学習の時間を実施できた。	(高1) B (高2) A (高3) B	(高1) ・コロナ禍にある現在だからこそ気づけたことを、日常の学習にリンクさせていく手立てがさらに必要である。 (高2) ・修学旅行が中止となったので「沼津→世界」への内容の発展はできなかったが、活動を通して生徒の地域理解が促進された。 (高3) ・生徒の進路意識を高めた。生徒が具体的に考えることができなかった。
		個別最適化学習の推進	進路	・進路シラバスは安定して運用されているが、新型コロナウイルス対策によりいくつかの行事が実施できなかった。校内資源を活用した代替行事を行った。	B	・新しい生活様式に対応した、行事の運営に関する枠組み作りを進化させる必要がある。実施した代替行事に関しては、年度中にその効果を検証し、次のPDCAサイクルへつなげる。
		外部模試とICTを活用した学習課題の把握 学力向上委員会の分析結果の活用	教科	(国語) ・外部模試のたびにデータ分析を行った。 ・学力向上委員会での話題を共有した。 (地歴・公民) ・ロイロノートを利用し、生徒の質問を受け、学習課題を把握することができた。 (数学) ・休校期間中にロイロノートやTeamsを活用して、学習課題の進行具合を把握した。 ・模試ごとに結果を分析し、情報共有を行った。 (理科) ・課題の提出をロイロで行った。大学入学試験問題の新傾向を模試等を参考に確認し、生徒に還元した。 (英語) ・ICTの活用に関してはどの授業でも比較的使われている。 ・分析結果をもとに長期休暇や週末の課題を設定できている。 (福祉・情報) ・年度当初休校時、ロイロノート	(国語) B (地・公) B (数学) B (理科) B (英語) A (福祉・情報) B	(国語) ・古典は課題について対応しやすいが、現代文には難しさがある。 (地歴・公民) ・生徒の学習課題を知ることができた。ロイロノートの体系的な問題ではあるが、通知がないので生徒の質問がきてもすぐに答えることができない。 (数学) ・普段の授業においても、ICTを活用し、教科内、学校内で共有していく。 ・模試の結果分析を教科の中で共有し、授業に還元していく。 (理科) ・ロイロでの提出の有無は生徒同士にも見えるので、刺激になったと思われる。 ・模試の活用によって偏差値が上がった。理科室でもWi-Fiの使用ができるようになったので、iPad等をもっと活用したい。 (英語) ・リスニング力の強化が今後さらに求められるため、より効率的なICT機器の使用を研究していく。 ・課題の量の調整を各学年で行うこと。生徒

達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
			<p>やハイスクールオンラインなどのシステムを利用し課題の提示や回収等を実施した。課題に対する自分の到達度を見ながら放課後、自主的に実技練習等取り組んでいた。</p> <p>(体育) ・タブレットによる動画撮影を活用した授業を展開できた。</p> <p>(家庭科) ・ICTを利用し授業動画配信、課題の提出など行った。また、授業復習等で活用できるよう授業資料、課題解答例をアップした。冬課題、単元のまとめなどでも活用した。</p> <p>・「フ造」では段階見本及び注意点などを添付し配信した。紙媒体の作り方よりもわかりやすかったと生徒の声が挙げられた。</p> <p>・作品や提出物を生徒間で公開することで学びの深まりが期待できた。</p> <p>(芸術) ・ICTを活用しての作品づくり、作品提出、相互鑑賞、評価を実践した。</p>	<p>(体育) B</p> <p>(家庭) A</p> <p>(芸術) B</p>	<p>にとって過度の負担になりすぎない配慮。(福祉・情報)</p> <p>・情報科の授業ではスキルの高い生徒に対しては、別途、より高度な課題の提供、また、各種検定への働きかけをし、数名の生徒が関連した資格を取得している。今後、検定希望者が増加した場合の指導時間の確保が課題。</p> <p>(体育) A (家庭科) ・保存した動画を評価に活用していきたい。</p> <p>(芸術) B ・コンピュータを使用した楽譜や楽曲づくりにより、生徒は自分の演奏技術によらず試行錯誤しながら作品を仕上げる事ができた。ロイロノートでの作品提出や鑑賞、評価により、効率よく学習を行うことができた。インターネット環境の速度低下により不具合が生じる点や、機器の数不足が課題である。</p>
	<p>・手帳活用による自己管理能力の向上 年度当初より 15%向上</p>	学年	<p>(高1) ・学年として活用を推進することができた。指示されなくとも、手帳に記入することができる生徒が増えた。</p> <p>(高2) ・多くの生徒に時間管理・課題管理の習慣がついており、課題の未提出や小テストの不合格者も減少した。</p> <p>【参考】 「向上した」と答えた生徒 56%</p> <p>(高3) ・受験や就職試験のために手帳を使っていた。</p>	<p>(高1) B</p> <p>(高2) B</p> <p>(高3) A</p>	<p>(高1) ・手帳を計画的な学習や提出物の期限厳守のために十分に活用できない生徒もおり、習慣的に活用させることを継続していく必要がある。</p> <p>(高2) ・次年度も継続したい。</p> <p>(高3) ・出願などを生徒自身でできた。使えない生徒はいつまでも使わない。</p>
新学習指導要領への対応	<p>・新教育課程の編成 G 理コース新設</p> <p>・中学校の評価方法を生かす 高校観点別評価の研究</p>	教務	<p>・現教育課程と比較しながら、新教育課程の案を作成し、中高合同で研修を行い、意見集約した。</p> <p>・中高合同の教科会で中等部の先生から観点別評価について情報共有を実施した。</p>	B	<p>・大学入試などの情報収集を行い、よりよい教育課程になるように検討していく。</p> <p>・観点別評価を実際にどのように行うか、本格実施に向けて、中高合同の教科会を通して実施していく。</p>
	<p>・カリキュラム・マネジメントの推進 研修年間2回</p> <p>・単元配列表等を活用した横断的・総合的な授業の推進</p>	研修	<p>・カリキュラム・マネジメント研修を7月6日(月)に実施。教科ごとの話し合いをもとに、中高・教科横断グループで総合的に見直した。</p>	A	<p>・カリキュラム・マネジメントの見直しを通して、本校の抱えている様々な課題を、教職員一人一人が多角的な視点から理解できた。結果、新教育課程の見直しにつなげることができた。</p>
	<p>・学校行事の教育効果の検証と精選 修学旅行満足度 中等部 90% 高校 90%</p>	高2 中3	<p>(高2) ・海外修学旅行が中止となり、代替研修を行った。</p> <p>【参考】 行事に主体的に参加したと感じている…82%(生徒アンケートより)</p> <p>(中3)3月実施予定</p>	(高2) B	<p>(高2) ・御殿場や横須賀において代替研修を行ったが、生徒は主体的に行動し、行事を楽しむ姿が良く見られた。行事後に、3年0学期への切り替えを口にする生徒も多く見られた。</p>
入試制度変更への対応	<p>・国公立大推薦対策、多面的総合評価への対応・英語外部検定試験等に対する対策</p>	進路	<p>・学力向上委員会や進路指導部が中核となって情報を収集し、学年団や生徒と共有し、指導に活かすことができた。</p>	A	<p>・入試制度の変更や社会情勢の変化などにより情報は流動的となり、常にアップデートし続ける必要がある。長期的なビジョンの下、短期的な計画をその都度、適宜調整することが求められる。</p>
中高一体となった授業改善等研修	<p>・AL 授業の実施 授業への取入れ割合 100%</p> <p>・県内市立高校合同研修 年間 20 人以上 先進校視察 5 校以上</p> <p>・ICT を活用した授業、習得活用・評価に関する研修</p>	研修	<p>・コロナ禍のため、県外視察については行わなかった。また、極力密になる設定を避けるため、校内研修も最小限にとどめた。その代わりに、県内市立高校合同研修は教科で義務付けを行い、年間延べ人数 22 人、リモート参加を含めると 27 人の先生方に研修していただいた。</p>	B	<p>・県外視察については、国内情勢を見極めながら管理職と相談して検討する。年度初めのロイロ研修を見直し、職員が積極的に授業に取り入れやすくなるよう、操作の基本研修と実践研修の2本立てを検討していく。教室のパソコンにもロイロを入れてもらったが、互換性が完全ではなかったため、確認していく。</p>

様式第3号

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
3	文武芸の三道鼎立で人間力を磨く逞しい生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自尊感情を高め、自主自立の精神を養う。 制服を正しく着こなし、さわやかな挨拶、清掃ができる生徒の育成 挨拶、清掃がしっかりできる 70% 主体的な生徒会活動への支援と生徒会行事 学園祭生徒満足度 70% 中高校則の見直し 校則は妥当である。65% 部活動、生徒会、ボランティア活動、進路指導等を通してやり抜く力を身につける。 部活動退部率 10%以下 共通テスト受験者 70% 部活動の効率的な指導法の研究 部活動ガイドラインの周知と見直し 部活動休日 週1回 平日1回の実施 地域貢献活動の奨励 一部活一貢献活動 全校生徒によるボランティア活動の実施 外部主催ボランティア参加者数 前年度比 10%増 	生徒	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の挨拶や清掃に取り組む姿勢は、おおむね良好。 今年度は、生徒会活動や行事の制約があり与えられた状況の中で工夫を凝らしながら活動できた。 <p>挨拶、清掃がしっかりできる 81.1%</p> <p>学園祭は動画配信とした。</p> <p>校則は妥当である。54.3%</p> <p>共通テスト受験者 77%</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 制服の着こなしや挨拶、清掃は継続している。 学校生活が通常に戻った時には、生徒会活動や行事、ボランティアを主体的に行う。また、今年度の状況を踏まえいくつかの行事実施パターンを作っておくことが必要。
		<ul style="list-style-type: none"> 環境美化習慣の確立 全校生徒による学校周辺の清掃活動 	保健	<ul style="list-style-type: none"> 日常の清掃活動は、生徒が主体的・積極的にいき、校内環境の美化に努めた。また、コロナ感染拡大防止策として、清掃時に消毒を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナにより、様々な行事が中止され、全校による学校周辺清掃は実施できなかった。一方、3年生による求道館清掃は実施でき、参加者は気持ちよく清掃に励んでくれた。
		<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育研究 	中等部 公民	(中等部) <ul style="list-style-type: none"> 年度内に5回の校内研修実施。他学年の授業参観等授業作りへの意欲が高まった。22の内容項目も全て扱うことができた。 (公民) <ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の単元で、人権教育を行った。 	(中) B (公民) B	(中等部) <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業に関心を持って臨む生徒が多く見られた。他教科との繋がりを意識し、更に深化する道徳授業を目指す。 (公民) <ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権意識を高めることができた。教科だけでなく学校行事や他教科などにも絡めて実施していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 読書指導と探究活動を支える本のレファレンス ビブリオバトル校内大会実施 	研修	<ul style="list-style-type: none"> ビブリオバトル事業自体は本年度は縮小され、県大会までとなった。本校では校内大会は断念したが、出場希望者を募り県大会に2名出場させた。 ブックフェアや図書選定、図書委員会主導によるビデオ上映会などを実施し、生徒の視野を広げた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度のビブリオバトル大会の開催に向け、校内大会や中高連携などを検討していく。 図書委員会では生徒主導による企画・運営が定着し、生徒が伸び伸びと活動できている。今後はその土台を活かし、生徒発の企画を取り入れていく。
三道鼎立で人間力を磨く。	(文) 中等部 英検 3級全員取得 英検準2級 10% 数検 3級全員取得 高校 難関大学進学 15% 就職決定率 100% 医療看護系志望進学率 100% 進路満足度 80% (武) 中等部 運動部県大会出場 90% 東海大会出場 2部活 高校 運動部県大会出場 90% 東海大会出場 3部活 新体力テスト男女優良校 (芸) 中等部 文化部地域との交流 100% 沼津市芸術祭出場 2部活 高校 文化部地域との交流 100% 沼津市芸術祭出場 3部活	中等部 進路 中等部 体育 中等部	(中等部) <ul style="list-style-type: none"> 中3：3級51名取得(第3回16名結果待ち) 準2級8%取得(第3回4名結果待ち) 数検は新たな取り組みなので、内容や日程、3年間で1回受検をすることを周知し、受験希望者を募った。 運動部 <ul style="list-style-type: none"> 陸上部県大会出場 弓道部県大会 個人4位 女子テニス部東海大会出場 女子バスケット部 U14 全国大会優勝 U15 全国大会ベスト16 柔道部は大会中止 文化部 <ul style="list-style-type: none"> 吹奏楽部は芸術祭や外部での演奏は中止福祉施設に演奏の動画DVDを送付し、地域交流の一助とした。 バトン部県大会金賞 (進路) <ul style="list-style-type: none"> 大学入試は現在継続中 就職希望者は、新型コロナウイルス感染症による雇用情勢の変化により、非常に厳しい環境であったが、最終的に全員内定を得ることができた。 	(中) A (進路) B	(中等部) <ul style="list-style-type: none"> 3級で満足することなく上級受験への意欲喚起を常に行う。 年1回は受験をし、数学の力をつけていく。 感染症拡大防止に伴い、中止になる大会も多かったが、できる範囲で最大限努力した。今後も、限られた範囲でよりよい活動ができるよう生徒の心身を育てていく。 今後もこの状況が続くことが予想されるので、動画配信など交流の形を工夫し、地域交流を行う。 (進路) <ul style="list-style-type: none"> 大学入試や就職試験合格に向けた組織的指導、および個別指導の取り組みは、教員の意識の共有を得て、安定した運営が行われている。 学年間で学力分布や進路希望等に隔年変動が見られており、長期的なビジョンの下、 	

様式第3号

		達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
					(体育) ・女子は優良校に選出されたが男子は達成できなかった。	(体育) B	学年の特性に応じた進路指導に最適化するための調整が必要である。 (体育) ・平均記録の悪かった種目を選出し、補強運動を追加していく
4	持続可能な沼津市の未来を創生するグローバル人材の育成	総合的探究の時間の実施	沼津市を内外にPRするポスターの発表と展示 英語版動画の作成と発信	学年	(高1) ・沼津市のPRとなるCM作成を企画していたが、取材を行うことができなくなり断念した。代替として、沼津市の現状や問題点を知り、その解決策についてプレゼンする活動を行った。 (高2) ・「私と沼津」の活動の中で沼津市をPRする英語動画の作成を行った。クラス毎に「自然」「歴史」「観光」などテーマを与え、テーマに沿った調べ学習及び動画作成を行った。 (高3) ・休校の影響もありほとんど実施できなかった。	(高1) C (高2) A (高3) C	(高1) (高1) ・外部との連携を行うことが困難な状況でも、ICT等を用いて、柔軟に対応していきけるような準備・計画が求められる。 (高2) ・英語力の向上だけでなく、沼津市への地域理解や親近感も同時に高まった。DVDを作成し、市内小中学校などにも配布した。また、動画作成技術を学べたことは、今後の推薦入試などへの利用の可能性もあり、非常に有意義な活動だった。 (高3) ・いつ何をするかを考える必要がある。 ・新型コロナウイルスの影響で外部機関とつながることが難しいときにどうすればいいのかを考える必要がある。
		地域を支える医療人材の育成	医療看護講座の充実・医療関連施設等見学・介護体験	進路	・医療看護系志望者への指導は、外部講師を招聘しての講座を実施したり、体験学習への参加を促進したりする指導を継続した。	B	・新型コロナウイルス感染で体験活動が行いにくい状況にある。オンラインを利用するなどして、関連施設や団体を活用する方法を一般化させる必要がある。
		グローバル化に対応した国際理解教育の推進	・エンパワーメントプログラムの実施年1回 ・国際理解講座の開催年間2回 ・海外姉妹校提携、オンライン英会話学習の導入研究	管理職	・コロナ下において、中止せざるを得ない行事があったが、開催予定の東京オリンピックのインバウンドとして「私と沼津(英語版)」の作成、修学旅行代替研修として、「近未来都市とグローバル」について裾野市役所職員から講演いただいた。	B	・グローバルであるためには、ローカルでなければならぬ、ということ再認識させていくことができた。
		同窓会、PTAと連携した在校生卒業生の就職支援の研究	・PTA保護者進路講演会の実施	進路	・3月実施予定	B	・保護者の真のニーズに合致した進路指導に係る情報を提供するため、外部から講師を招聘し、また本校卒業生との質疑応答の場を設ける等の取り組みを企画した。今後とも、この取り組みを継続すべく、PTAや卒業生等の資源を有効活用する。
5	中高一貫の強みを生かした学校改革・働き方改革の推進	中高の絆を強くし、6年間の指導体制を確立し、流出防止を図る。	・自尊感情を高める指導の研究 振り返りシート カウンセリング室だより 年10回 ・不登校対策できたことノートの実践と研究 ・6年間で生徒を育てるための教員の人事交流、研修等の実施 ・シニアティーチャー ・高校模擬授業、高校教員の面接の実施 ・難関大対策講座の充実 ・ドリームマップの活用	保健 中等部 管理職 研修 接続 進路 中等部	(保健) ・人権アンケートを実施した。また、保健カウンセリング委員による人権教育(今年度はコロナと人権、SNSと人権が主テーマ)を実践した。 (中等部) ・中1で実践、自己を振り返る機会、自己肯定感の向上に繋げた。 (管理職) ・数学科において中高の人事交流を行なっている。 (研修) ・年間3回実施することができた。中等部生の学力向上だけでなく、運営を生徒に行わせることで、高校生の自立心の育成に繋げた。今年度は日程の再見直しを行うことで、中高の時間のずれ違いを回避できた。 (接続) ・中等部3年生の生徒に高校教員が面談することで、中学卒業までの学校生活に対する考えを深め、自覚と主体性を持った学習習慣をつける。 (進路) ・年4回実施の学力向上委員会では上位者の把握と教員間での情報共有を行った。高3では丁寧な個別指導で入試対策を行った。 (中等部) ・90%の生徒が事後アンケートで肯定的回答。総合的な学習の時	(保健) B (中) B (管理職) A (研修) A (接続) B (進路) A (中) A	(保健) ・コロナに関して、カウンセリング室の利用が増えるかと想定していたが、例年並みの状況になった。カウンセリング室の効果的活用、カウンセリングの内容に関する適切かつ迅速な情報共有は課題である。体制や仕組み等を再構築していきたい。 (中等部) ・人間関係プログラムや道徳、ドリームマップと関連させて取り組む。 (管理職) ・今後の研修に活かしたい。 (研修) ・引き続き、生徒主導による運営を通して、中等部生の学力向上・中高の繋がり・高校生の自信に結び付けられるよう工夫する。生徒のポートフォリオになるよう、実際の運営だけでなく、日程や指導方針についても生徒が協議して進めていけるシステムを作る。 (接続) ・高校生が教えたいと希望する教科と中学生の学びたいと感じる教科のマッチングがうまくいくようすすめていく。 (接続) ・6年間を見据えた第2ステージでの取り組みをサポートしていく。他校へ流出してしまう生徒を減らしていきたい。 (進路) ・効率的で持続可能な指導システム作り。各教員の持つノウハウを共有し、教員が変わっても、本校として質の変わらない指導が行われる必要がある。 (中等部) ・ドリームマップを様々な行事や授業、日常生活と結びつける手立てをより明確にす

様式第3号

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題
		<ul style="list-style-type: none"> PTA地区会員の絆の強化 エンカウンター 年2回 	総務	<p>間の柱として全学年取り組み、夢宣言へとつなげることができた。</p> <p>(総務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は行うことができなかった。 	(総務) C	<p>る。</p> <p>(総務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度は状況を見て行う。
	協働性の向上によるPTA活動の効率的運営	<ul style="list-style-type: none"> PTA役員会の効率的運営 PTA地区会の質的改善 	総務	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策によって今までのやり方を見直すことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> さらに改善していけると思う。
	本校教育への理解を深める広報活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> 本校からの情報発信の充実 毎月、本校行事に関する記事をローカル紙への提供 地域及び小中学校への情報提供 市沼新聞、ALT通信 年間5回発行 	管理職 総務	<p>(管理職)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における、各種行事について在り方も含めて、年間12回の(1月19日現在)記事提供を行った。(部活動を含めると20回以上) 地域や小中学校への情報提供として学校HP等も活用し、広報誌「市沼」、ALT通信、DVD「私と沼津(英語版)」など年間5回以上行った。 <p>(総務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行することができた。 	(管理職) A (総務) B	<p>(管理職)</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続して本校からの情報発信を行っていきたい。 <p>(総務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ形で続けていきたい。
	休暇取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> 割振、振替の徹底 夏期休業中の休暇取得促進日の設定 部活動休日週1日完全実施 休暇取得促進日の取得100% 体験入学の等の改善 	管理職	<ul style="list-style-type: none"> 割り振り、振替については適宜の対応であった。 部活動における休日週1日については定着している。 夏季休業中の体験入学は、7月中旬に1回にまとめ、職員が休みを取りやすい日程にした。 	(管理職) A	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事計画の精選や各行事の適切な運営計画を把握し、割り振り、振替の徹底を図りたい。 継続して、毎月の活動計画の把握と部活動ガイドラインの徹底を図りたい。 次年度以降も同じ計画としたい。
	時間外労働時間の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日の設定 	管理職	<ul style="list-style-type: none"> 月曜日を定時退勤日とした。 コロナ禍における休校、部活動の大会中止等の影響により、一部の教員を除いて、例年より超過勤務が減少した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も現在の習慣を継続したい。